



日本地球化学会ニュース

No. 210 September 2012

Contents

年会のお知らせ	2
2012年度日本地球化学会年会のお知らせ(3)	
研究集会報告	4
日本地球惑星科学連合2012年大会報告	
Goldschmidt 国際会議2012参加報告	
院生による研究室紹介 No. 23	6
古海洋環境研究チーム研究生／筑波大学大学院生命環境科学研究科	
地球進化科学専攻	(原田尚美研究室)
2012年度日本地球化学会年会のプログラム	

年会のお知らせ

2012年度日本地球化学会年会のお知らせ(3)

主催：日本地球化学会

共催：国立大学法人九州大学，日本化学会，日本分析化学会，日本鉱物科学会，日本地質学会

協賛：日本質量分析学会

会期：平成24年9月11日～13日

会場：九州大学箱崎キャンパス文系地区

年会サイト：<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2012/>

交通：福岡市営地下鉄 箱崎九大前より徒歩5分
アクセスについては，下記のサイトを参照下さい。

<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/map/hakozaki/hakozako1.pdf>

(福岡空港，博多駅からの経路)

<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/map/hakozaki/hakozaki.html> (キャンパス内地図)

内容：口頭発表及びポスター発表，総会，学会賞記念講演，懇親会，夜間小集会，閉会式。口頭発表は，A～Eの5会場に分かれて行われます。ポスター発表は生協文系食堂（会場F），総会・学会賞記念講演は大講義室（会場G），夜間小集会は会場B，懇親会は記念講堂中央食堂で行います。関連イベントとして，巡検，市民講演会，ショートコースを開催します。

学生発表賞：きわめて優れた口頭・ポスター発表を行った日本地球化学会学生会員に授与します。受賞者発表・表彰式は閉会式で行います。

プログラム：以下に掲載されております。

<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2012/program.html>

講演要旨は8月中旬から，J-STAGE上

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geochemproc-char/ja/>

で公開されます。なお，要旨集の事前送付は行いません。学会当日に会場にて配布いたします。

年会当日の受付：文系地区共通講義棟1階の入口付近で，8時30分から（2日目以降は8時から）開始します。

口頭発表について：

- ・口頭発表時間は，招待講演を除き，討論を含めて15分です。発表を12分以内で終了し，少なくとも3分

の討論時間を確保するよう努めてください。10分で第1鈴，12分で第2鈴，15分で講演終了の第3鈴が鳴ります。招待講演の時間は20分，25分，30分の場合がありますので，プログラムでご確認ください。討論等の時間配分についてはセッションコンビナーにお問い合わせください。

- ・口頭発表には各会場で液晶プロジェクター1台のみ使用できます。各プロジェクターに切り替え装置を接続していますので，次の発表者の方はプロジェクターにご自分のノートパソコンを接続し，あらかじめ発表に備えてください。発表されるセッション前の休憩時間に，一度ノートパソコンを接続し，動作をご確認ください。すみやかな発表者の交替にご協力ください。
- ・ご自身のノートパソコンを用意できない場合は，コンビナーまたは年会事務局に前もってご相談ください。

ポスター発表について：

- ・各ポスターを掲示するパネルには発表番号が示してあります。ポスターボードのサイズは縦175 cm×横116 cmです。ポスターの左上角に必ずポスター番号を明記して下さい。掲示に使用する画鋏・テープなどは年会事務局で用意いたします。
- ・ポスターセッションは初日と2日目に開催されます。初日・2日目に口頭発表が行われるセッションのポスター発表が初日（ただし，G2セッションのみは2日目），3日目に口頭発表が行われるセッションのポスター発表が2日目です。ポスター発表のコアタイムは初日がと13時から14時半，2日目が13時半から15時です。詳しくはプログラムをご覧ください。
- ・ポスターは各発表日の受付開始時間から掲示可能です。各自のポスターはコアタイムまでには必ず掲示し，コアタイムには発表者はポスター前に立って説明してください。ポスターは当日の17時30分までには必ず撤去してください。それ以降も掲示してあるポスターは年会事務局が撤去・廃棄する場合がありますので，ご協力をお願いします。

参加予約申込：年会サイトから，指示に従って申し込んで下さい。6月13日(水) 14時受付開始。8月24日(金) 14時締切（割引料金が適用されます）。これらのお支払いは，年会サイトから，クレジットカードによるオンライン決済でお願いします。なお，各種の支払いは代理で行うことも可能です。クレジット

カードによるお支払いが困難な場合は、年会事務局に締切の1週間前までにお知らせ下さい。締切を過ぎた場合は、当日申し込み下さい。年会当日の参加登録費のお支払いは現金となります。領収書を必要とする場合は、年会当日に受付にお申し出下さい。

参加登録費（講演要旨集1部含む）：

予約：一般会員5,000円、学生会員1,000円、
会員外7,000円、会員外学生3,000円
当日：一般会員6,000円、学生会員3,000円、
会員外7,000円、会員外学生4,000円

*なお、会員は日本地球化学会及び共催・協賛学会（年会サイトで御確認下さい）の会員を指します。当日受付で入会された方も会員扱いとします。学部生は無料（但し要旨集なし。メールで事務局に直接登録下さい）。

懇親会：9月12日(水) 学会賞等受賞講演終了後、記念講堂中央食堂（箱崎キャンパス）にて。予約5,000円（学生2,000円）、当日6,000円（学生3,000円）。

追加の講演要旨集：3,000円／部（当日手渡し）（後日郵送の場合は3,500円／部）。

併設展示：関連機器メーカーその他による展示会を共通講義棟1階にて開催します。多数の方のご来場をお待ちしております。

保育施設：幹旋致しますので、事務局にお問い合わせ下さい。

その他：年会事務局では宿泊・航空券等の幹旋はいたしません。各自お早めに手配ください。

年会事務局：

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学大学院理学研究院内
2012年度日本地球化学会年会事務局
E-mail：2012@geochem.jp

●地球化学会2012年度年会巡検のお知らせ

「今年の年会は九州だから巡検をやろう」という声にお応えして、LOCでは1泊2日の巡検を企画いたしました。下記の要領で九州北部の温泉、海、火山を巡る計画ですので奮ってご参加下さい。

なお九大のバスを借り上げて実施するため、参加できる人数に限りがございます。興味をお持ちの方は、お問い合わせだけでもお早めにいただけるようお願いいたします。

開催日時・場所

日程：9月13日(木) 夕方～14日(金) 夕方
講演プログラム終了直後に九大を出発

プログラム

詳細は年会ホームページをご覧ください。

<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2012/junken.html>

行程：（一部の予定変更はご容赦下さい）

13日 講演プログラム終了直後に九大を出発

船小屋温泉「公園の宿」に到着し、温泉散策
夕食後、巡検地に関する討論会

14日 8時頃に宿を出発し、有明フェリーで長洲港から島原半島へ移動

九大島原地震火山観測所、がまだすドームの見学

昼食後、雲仙地獄の散策

18：00頃までに福岡空港および博多駅へ到着、
流れ解散

参加費

費用：15,000円程度（宿泊代+交通費、ただし14日昼食は別途です）

申し込み方法

巡検に関するお問い合わせ・お申し込みは

2012 junken@geochem.jp までお願いいたします。

担当者：石橋純一郎・宮本知治（九州大学理学部地球惑星科学教室）

●市民講演会のお知らせ

日本地球化学会では、年会の前に、市民講演会を開催致します。会員の皆様もぜひご参加下さい。

行事名：日本地球化学会市民講演会「未来を拓く地球科学」（主催：日本地球化学会）

日 時：2012年9月9日(日) 13：00～15：00（12：30開場）

場 所：九州大学西新プラザ（福岡市早良区西新2丁目16-23）

対 象：中高生、一般市民（事前の予約は必要ありません）

プログラム：

1. 海底の恵みに囲まれている日本
石橋純一郎（九州大学理学研究院准教授）
2. 魅惑の化学空間、宇宙
奈良岡 浩（九州大学理学研究院教授）

詳細は年会ホームページをご覧ください。

<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2012/public.html>

連絡先・問い合わせ：

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学大学院理学研究院内

2012年度日本地球化学会年会事務局

E-mail：2012@geochem.jp

●**ショートコースのお知らせ**

第7回日本地球化学会ショートコース講演プログラム

【はじめに】 9：30～9：35

平田岳史（京都大学）

【講演1】 9：35～10：55

「もうひとつの二酸化炭素問題：「海洋酸性化」を太古の海からさぐる」

原田尚美（海洋研究開発機構）

【講演2】 10：55～12：15

「ミクロンサイズの鉱物から迫る地球・惑星の進化」

飯塚 毅（東京大学大学院理学研究科）

【講演3】 13：15～14：35

「同位体比を用いた古環境変動解析」

丸岡照幸（筑波大学大学院生命環境科学研究科）

【講演4】 14：35～15：55

「マルチプルツールと沿岸海洋の地球化学」

張 勁（富山大学大学院理工学研究部）

【講演5】 16：10～17：30

「Basic Presentation Skills in English」

Huixin Liu（九州大学大学院理学研究院）

【Closing】 17：30～17：40

(1) **開催日時・場所**

日時：平成24年9月10日（月曜日）

午前9時30分～夜6時頃まで（日本地球化学

会年会開催日：2012年9月11～13日）

ショートコース会場：九州大学箱崎キャンパス（理系地区）地球惑星科学第二講義室（理学部2号館2階2259室）

会場へのアクセス方法については、年会ホームページをご覧ください。

<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2012/junken.html>

地球惑星科学第二講義室の地図は以下のPDFをご参照下さい。

http://www.wdc-jp.biz/geochem/2012/short-course_access.pdf

(2) **参加費**

3,000円（講師謝金費、資料代、弁当代等を含む）。当日受付で徴収いたします。

但し、日本地球化学会学生会員は学会からの補助により2,000円引とします。

(3) **申込み方法**

7月頃から下記京都大学のホームページ上で参加申し込みを受け付け開始します。以下のサイトから申し込みファイルをダウンロードし、必要事項を記入の上、お申し込み下さい。

<http://www.kueps.kyoto-u.ac.jp/~web-geochem/ShortCourse2012.html>

(4) **定員・申込締切**

50名（先着順）。9月3日(月)を参加申込締切日としますが、定員になり次第、参加申し込みを締め切らせて頂きます。主として本学会の学生会員を対象としますが、非会員の方の参加も歓迎します。

(5) **お問い合わせ**

不明な点などございましたら下記連絡先までメールでお問い合わせください。

平田岳史（京都大学大学院理学研究科）：

hrt1@kueps.kyoto-u.ac.jp

研究集会報告

●日本地球惑星科学連合2012年大会報告

地球惑星科学連合大会は、地球科学、惑星科学、宇宙科学に関連する日本最大の学術会議で、1990年から開催されています。今年の連合大会は、5月20日から25日までの6日間、千葉県の幕張メッセで開催されました。セッション数は171、全投稿件数は3,810件と去年より約100件増加し、全参加者も7,318人と過去最大規模での開催となりました。地球化学関連のセッションも複数開催され、活発な研究発表とディスカッションが行われました。

今年の連合大会では、2011年3月の東日本大震災から1年が経過し、地震や津波に加え、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染ならびに減災・防災に関連するセッションが設けられたことが大きな関心呼びました。また、古い時代に生じた大津波を伴う巨大地震のセッションも発表数が大変多いセッションの1つでした。地球化学会関連のセッションでは、「地球化学の最前線：先端的手法から探る地球像」（代表コッピナー高橋嘉夫）が会場から人があふれるほど好

評を博していました。

日本地球化学会の学協会ブースでは、評議員と広報委員の方々にお手伝いいただき、学会員の勧誘、ノベルティやパンフレットの配布、機関誌である地球化学や *Geochemical Journal* の無料配布、地球化学若手会やショートコース等の研究集会の案内を行いました。また、学会員が著者となっている書籍の販売も行い、これらは最大24%引き割引価格) や付録付きで販売され、完売が相次ぐなどの盛況でした。

地球惑星連合大会の投稿数、参加者数は毎年右肩上がりに増加しています。この事実は、この大会に対する地球惑星関連学会の会員の関心の高まりを表しています。地球惑星連合大会、専門が異なる分野の研究者と交流や接点を作る絶好の機会であり、また異分野の最新の研究成果に直接触れることのできる場でもあります。多くの日本地球化学会会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

下記に今回、日本地球化学会ブースで販売した会員書籍のリストを示します。

著書名：都市の水資源と地下水の未来

著者：益田晴恵ほか

出版社：京都大学学術出版会

著書名：地球表層環境の進化—先カンブリア時代から近未来まで

著者：川幡穂高

出版社：東京大学出版会

著書名：海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む

著者：川幡穂高

出版社：東京大学出版会

著書名：「海底鉱物資源」未利用レアメタルの探査と開発

著者：白井 朗

出版社：オーム社

著書名：アストロバイオロジー—宇宙が語る生命の起源

著者：小林憲正

出版社：岩波書店

(広報委員会 JpGU 担当・平野直人、
広報幹事・原田尚美)

●Goldschmidt 国際会議2012参加報告

2012年の第21回ゴールドシュミット国際会議は、6月24日から29日までの6日間、カナダのケベック州モントリオールで開催されました。この会議はヨーロッパ地球化学連合 (European Association of Geochemistry, EAG) と米国地球化学会 (Geochemical Society, GS) が主催、日本地球化学会 (GSJ) やその他の関連学会が共催する国際学会で、地球化学関連では参加者数が最大規模の学会です。開催地であるモントリオールは、セントローレンス川とオタワ川の合流点に位置する川中島にあり、パリに次いで世界第2位のフランス語圏の都市です。学会は旧市街にほど近い中華街の隣にある Palais des Congress で開催されました。

今回のゴールドシュミット国際会議のテーマは “The Earth in Evolution”。本会におけるベンチマークとなる地球化学や新しい技術開発のセッションやシンポジウムに加えて、「進化」をキーワードにしたプレナリーセッションやシェールガスなど将来の天然資源に関するセッションも設けられていました。全体で23のテーマに2つから14のセッションがぶら下がり22の会場で並行してセッションが進むという大規模な学会でした。参加人数は毎年増加の一途をたどっていますが、会場が広いので大きな混雑もなく、一部の人気セッションや部屋の外まで人が溢れていたセッションを除き快適に聴講することができました。ポスター会場は展示会場と共通の会場でしたが、区画が狭くかなり混雑していました。すぐそばにスペースがあったのもう少しポスタースペースに余裕を設けることもできたのではと感じました。前回の会議でスペシャルセッションが設けられた福島第一原子力発電所事故に関連して、論文集「Fukushima Review」が Elements から出版され、日本地球化学会の展示ブースの右隣に設けられていた展示ブースにて配布されていました。

日本地球化学会では PR 活動の一環として毎回の本会議でブース展示を行い、GJ の CD-ROM や冊子体を無料で配布しております。今年はパンフレットも一新し、地球化学会のロゴ入りボールペンと GJ 特集号「Fukushima Review」のコンテンツの配布も行いました。ブースには GJ や日本の研究機関や大学でのポスドクとして日本で研究をしたい若手研究者や、海外の研究機関に在籍する在外会員、日本に留学経験のある研究者が訪ねてきてくれました。毎回のことです

が、今回も情報交換の場として、また待ち合わせ場所として多くの方々に利用していただきました。今年のGJ賞の受賞論文は、S. Fujiwara, K. Yamamoto & K. Mimura “Dissolution processes of elements from subducting sediments into fluids: Evidence from the chemical composition of the Sanbagawa polydeformed schists.” Vol. 45, 221-234 (2011) でした(写真1参照)。筆頭著者の藤原早絵子さんに吉田会長ならびに塚本GJ編集委員長から賞が授与されました。心より受賞をお喜び申し上げます。

来年のゴールドシュミット会議は8月25日から30日までイタリアのフローレンスで開催されます。是非参加をご検討ください。日本地球化学会には鳥居基金という海外派遣の助成制度もあります。基金の詳細は<http://www.geochem.jp/prize/torii.html>にありますので、関心のある方はご参考にさせていただきます。最後になりましたが、大きなニュースとして2016年の日本での開催決定をお伝えいたします。具体的な開催地の決定は9月の第59回日本地球化学会年会(九州大学)時になるかと思えます。2003年の倉敷での開催時の1200名から昨今では3,000~4,000名と参加者数の規模や関連分野が大きく拡大していることから、他学会のご協力をいただきながら連携して開催することが不可欠と思われれます。しかしながら、早めの行動を意識しながら粛々とことを進めていくことが必須であり、本学会員におかれましては、日本開催にご理解いただきまして、是非ともご協力いただけますようお願い申し上げます

(広報幹事・原田尚美)



写真1 GJ賞受賞者藤原早絵子さんの記念撮影(日本地球化学会展示ブース前にて撮影:左から塚本GJ編集委員長,藤原早絵子さん,吉田日本地球化学会会長)



院生による研究室紹介 No.23

古海洋環境研究チーム研究生/筑波大学大学院生命環境科学研究科地球進化科学専攻

みなさま、こんにちは。今回はまだまだ残暑の厳しい横須賀より「独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)地球環境変動領域(RIGC)物質循環研究プログラム古海洋環境研究チーム」の紹介をいたします。担当は古海洋環境研究チーム研究生/筑波大学大学院生命環境科学研究科地球進化科学専攻博士後期課程3年の福田です。私は博士後期課程より、古海洋環境研究チームの方々にお世話になりながら研究活動を行っており、今回学生の立場からみた研究室の様子を紹介出来ればと思います。

私たちの研究チームは現在(2012年8月)、原田尚美チームリーダーを中心に木元克典技術研究副主幹、長島佳菜研究員と技術専任スタッフ2名(中村由里子,佐藤都),招聘主任研究員(岡崎裕典九州大学准教授)および外来研究員(小野寺丈尚太郎 JSPS特別研究員)が1名ずつ、研究支援パートタイマーが6名、研究生が4名の計17名在籍しております(写真2)。本研究チームは他のチームに比べて女性の比率が高く、賑やかで親しみやすいチームです。研究支援職員の方々も非常に仲がよく、実験室では笑い声が絶えないことがあるとかないとか。研究生は茨城から九州まで様々な学生が在籍しており、同チームの研究員の方々に教わりながら分析や研究活動を進めています。

私たちの研究チームの目標は“堆積物や海水に記録された環境データを現在から過去へと遡って取得し、急激に生じた地球規模の気候変動の実態や伝播メカニズムを明らかにすること”です。同時に地球規模での気候変動に対して海洋物質循環がどう応答して変化するのかを明らかにしたいと考えています。

ここからは本チームで行っている研究内容をいくつか紹介いたします。

人為起源の影響が出る産業革命以前の海洋や大気環境を知ることは、現在のみならず将来の気候変動を考える上でも重要です。そこで私たちは北太平洋やその周辺の縁辺海(オホーツク海やベーリング海,日本



写真2 古海洋環境研究チームのメンバー（後列左から、佐藤さん、岡崎さん、小野寺さん、木元さん。前列左から長島さん、原田TL、筆者、中村さん）。停泊中の『かいよう』前にて。

海，東シナ海），チリ沖などで採取された海底堆積物に記録された各種代替指標（プロキシー）を分析し，観測データを過去に遡ることで数10年から1000年程度の周期性を持った気候変動の復元を行っています。具体的には表層水温や塩分，基礎生産，（海洋表層から深層までの）水塊分布の変化を調べるためにGC-MSやICP-MSなどの装置を用いて円石藻に含まれるアルケノンや有孔虫の殻の酸素同位体比やマグネシウム／カルシウム比，バルク堆積物の有機炭素や窒素含有量・同位体比測定，放射性核種（トリウム），微化石（動・植物プランクトン）の群集解析などを行っています。最近では福井県の水月湖や秋田県の一ノ目潟などの年縞を記録した湖沼堆積物を用いた分析も開始しており，年々変動に伴う環境変動の解析にも取り組んでいます。またセジメントトラップ（海洋中を沈降する粒子を捕集する装置）を用いて北極海や北太平洋での生物起源粒子（有機炭素や窒素など）を時系列に採取し，生物生産の季節変化や年変化を明らかにする研究も行っています。

過去の気候変動の伝播メカニズムを明らかにするためには多くのプロキシーデータを得るだけでなく，古気候モデルと連携して研究を行うことが不可欠です。将来予測に用いられる数値モデルは，古気候・古環境研究における分析結果と照合することで精度の検証が行われているため，プロキシーデータとモデル両面からのアプローチを行うことは古気候モデルの精度の向

上にも貢献出来るといえます。本チームでは現在，ハワイ大学IPRCの地球システムモデル（LOVE-CLIM）や東京大学大気海洋研究所の大気海洋結合モデル（MIROC）などの古気候モデル研究者と連携することで，融氷期（1万7500年前から1万1500年前）に繰り返された1000年スケール気候変動に回答して変化した北太平洋中・深層循環を明らかにする研究を進めています。

本チームでは過去の環境をより理解するために従来のプロキシーの高精度化や新しいプロキシーの開発も積極的に行っています。例えば，岡山理科大学と共同で1つぶの石英粒子を用いたカソードルミネッセンスによる風成塵の起源推定法の確立を目指しています。この手法を用いて，風成塵（ダスト）として日本列島へと輸送される石英粒子の電子スピン共鳴信号強度（ESR）と結晶化度が中国の砂漠（ゴビ砂漠やタクラマカン砂漠など）ごとに異なることを利用することでダストの供給源を推定し，堆積物に記録されたダストの供給源を過去に遡って探ることで，偏西風やアジアモンスーンなどの大気環境が時代に応じてどのように変化してきたのかを推測することが可能になってきました。また，水槽中で海水のCO₂濃度やpH，水温，塩分などをコントロールしながら浮遊性有孔虫を飼育することで，有孔虫の炭酸塩殻の溶解がどのように進むかを調べ，炭酸塩濃度を定量化するための指標開発を試みており，この手法を用いて地球温暖化と共に深



写真3 ガスクロマトグラフ分析用試料を前処理している様子



写真4 海水のアルカリ度測定の様子

刻化している海洋酸性化に伴うプランクトンの環境変化への応答を明らかにする研究を実施しています。さらに、安全で短時間に分析可能な生物源オパールや石英（ SiO_2 ）の酸素同位体比測定法の開発も行っています。

以上の研究を行うために欠かせないのが、試料を採取するためのフィールドワークです。海水や堆積物サンプルの採取やセジメントトラップの設置や回収を行うために JAMSTEC の保有する研究調査船はもちろんのこと海外の研究調査船に乗船することもあります。乗船期間は短い場合で1週間、長い時には1ヶ月以上にも及びます。船内での生活は観測内容やその進行状況に大きく左右されるため、時にはゆっくり食事を取れなかったり、不規則な生活になったり、運動不足になることもあります。しかし、船長をはじめとして船員、観測技術員など多くの方々の協力によって採取されたサンプルを目の当たりにするとそのような疲れは吹き飛び、その後行う分析への意欲がよりいっそう湧いてきます。また海洋観測を行う分野にも共通することであると思いますが、古海洋学分野の研究では、ひとつの堆積物コアについて複数の研究者が各々のプロキシの分析を行い、協力して大きな成果を上げることが多いため、人とのコミュニケーションを積極的にとることが研究を遂行する上でも特に重要であると感じます。私はこれまで、数回、研究調査船に乗船する機会があり、その経験から、乗船の醍醐味は現場での海洋観測はもちろんのこと、船員や観測技術員の方々のこれまでの乗船話を聞くことができる点であると思っています。

普段の生活では同プログラムの海洋時系列観測や海

洋・陸域生態系モデルを行うチームとの合同セミナーが月に1回の頻度で開催され、活発な議論が行われた後には懇親会が行われることもしばしばあり親睦を深めています。また招聘研究員の方々による各分野の研究のレビューをしていただく機会もあり、大変勉強になっています。

本チームのある JAMSTEC 横須賀本部の目の前は横須賀港で周辺には日産や住友などの工場があるため付近の岸壁には JAMSTEC が保有する研究調査船だけでなく、様々な輸送船が停泊しており、潜水艦が見えることもあるそうです。一方、敷地のすぐ裏には、夏島貝塚を含めた小山があり、春にはウグイス、夏にセミやひぐらしの鳴き声がするので四季を存分に体感することが出来ます。最寄りの追浜駅からの唯一の公共交通機関であるバスは、日中1時間に1本しかなく、また研究所の周りもコンビニがなく、不便を感じることもあります。海と船好きには絶好の環境ではないかと実感しています。

最後になりましたが、本チームを含めた物質循環研究プログラムでは、先日ホームページをリニューアルしました。さらに詳しい研究の様子が知りたい！という方は <http://www.jamstec.go.jp/rigc/j/ebcrp/paleo/index.html> を是非覗いてみてください。また、これまで本チームの方々が採取してきた試料の分析データをも公開しております（パレオデータサイト <http://ebcrpa.jamstec.go.jp/rigc/e/ebcrp/paleo/paleodb/>）ので、ご覧いただければ幸いです。

（古海洋環境研究チーム研究生／筑波大学大学院生命環境科学研究科地球進化科学専攻博士後期課程3年・福田美保）

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会、書評、研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上、電子メールでの原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2012年12月頃を予定しています。ニュース原稿は10月下旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会ニュース・HP 幹事）

川幡穂高

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学大気海洋研究所
海洋底科学部門

Tel : 04-7136-6140

E-mail: news-hp@geochem.jp

原田尚美

〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2-15
海洋研究開発機構（JAMSTEC）
地球環境変動領域

Tel : 046-867-9504 / Fax : 046-867-9455

E-mail: news-hp@geochem.jp